

観光活性化標識ガイドライン検討会

報告書

平成17年4月

趣 旨

国際相互理解の増進、我が国経済の活性化の観点から、自然、歴史、文化、産業などの観光資源を創造・再発見し、これを内外に発信することによって、我が国が観光立国を推進していくことが一層重要となつてきている。

平成15年4月に内閣総理大臣主宰の観光立国懇談会において、観光立国に向けての基本的な考え方が「観光立国懇談会報告書」として取りまとめられているが、その中でも、「今日の日本の観光インフラは、外国人にとって決して親切に設計されているとはいえない。日本の街は、外国人が一人歩きしにくい状況にある」などの指摘がなされているように、旅行者が安心して一人歩きできる環境づくりが、観光立国を推進していく上で重要な施策の一つとなっている。

このような状況を受け、国土交通省では、案内標識の現状と課題を整理・分析して、道路、河川、公園、交通機関、観光施設等に設置されている案内標識の表記方法や計画・設置等の基本的考え方を定めた「観光活性化標識ガイドライン」の取りまとめに向けた作業を進めているところである。本検討会は、このガイドラインの内容をより一層充実させることを目的として、有識者の意見を幅広くまとめるべく開催したものである。

観光活性化標識ガイドライン検討会 名簿

(座長)

家田 仁	東京大学大学院工学系研究科教授
赤瀬 達三	(株) 黎デザイン総合計画研究所代表取締役
梅川 智也	(財) 日本交通公社研究調査部次長
大口 敬	首都大学東京都市環境学部准教授
小佐野 常夫	富士河口湖町長
岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科教授
桐谷 エリザベス	アナウンサー・フリージャーナリスト
古賀 学	(社) 日本観光協会調査企画部長
田所 俊彦 (前任) 小田中 克巳	(社) 日本ツーリズム産業団体連合会事業部長
中井 祐	東京大学大学院工学系研究科助教授
廻 洋子	淑徳大学国際コミュニケーション学部客員教授 (五十音順)

(事務局)

横山 晴生	国土交通省総合政策局事業総括調整官
柳橋 則夫	国土交通省総合政策局建設副産物企画官
若林 陽介	国土交通省総合政策局観光地域振興課長
島田 勘資	国土交通省総合政策局観光地域振興課観光地域活動支援室長
中島 浩	都市づくりパブリックセンター専務理事
加藤 常雄	都市づくりパブリックセンター研究一部長
宮沢 功	株式会社ジイケイ設計取締役社長

目 次

I 観光に関する案内標識の現状と課題

1. 案内標識に関する指針等の現状
2. 案内標識に関する課題の抽出
3. 課題への対応
4. ガイドラインに盛り込むべき内容

II ガイドラインに盛り込むべき内容

はじめに

第1章 観光に関する情報提供と案内標識の役割

1. 観光客をとりまく環境
2. 観光客の必要とする情報
 - (1) 観光情報の種類
 - (2) 観光情報を提供する手段
3. 案内標識に求められる役割

第2章 観光活性化のための案内標識整備の基本的考え方

1. 基本方針
 - (1) メディア相互の補完
 - (2) 一貫した案内
 - (3) 地域特性を踏まえた情報提供
 - (4) ユニバーサルデザインへの配慮
 - (5) 視認性の確保
2. 案内標識の計画・設置と管理
 - (1) 総合的なマネジメントの組織づくり
 - (2) 計画・設置と管理
 - 1) 現状の点検
 - 2) 配置計画
 - 3) 設置
 - 4) 管理
 - A. 設置状態の維持
 - B. 情報の更新
 - C. 見直し・改善

3. 案内標識の表示

(1) 表記方法

1) 各言語に関する表記方法

- A. 日本語の表記方法
- B. 英語（ローマ字）の表記方法
- C. 多言語表記を行う場合
- D. ピクトグラムの表記方法

2) 図解標識の表記方法

(2) レイアウト

1) スケール

2) 色彩

第3章 主に観光客を対象とする案内標識に関して留意すべき事項

- 1. 観光地の誘導形態に応じた案内標識の配置
- 2. 情報掲載の基準
- 3. 識別性

Ⅲ 今後の課題

ガイドラインに基づいたパイロットケースの実施
提供することが望ましい観光情報の体系化
ローマ字・英語表記法の再検討

参考資料 1

点検結果(事例)

参考資料 2

公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン

参考資料 3

「わかりやすい道路案内標識に関する検討会」提言